

文教厚生委員会 活動報告会 (要旨)

調査テーマ

「介護人材の確保と介護サービスの最適化の取組み強化」

超高齢社会を目前に控えた今、介護人材の確保と、介護サービスの最適化により、介護保険事業の安定的な運営を図りつつ、高齢者を要介護状態にさせない、また要介護状態になったとしてもできるだけ機能を維持し、重度化させないことが重要です。そこで、先進地である豊明市、東京都武蔵野市、八王子市、奈良県生駒市を訪問し、各市の取組み状況を視察しました。また、ケアプランの最適化による重度化防止に加えて、介護職員の負担軽減が、介護人材不足の解消につながると考え、ＡＩを用いたケアマネジメント支援システムについて、学びました。

視察の結果を踏まえ、以下のとおり提言をしました。

実効性のある施策について

「アンケート等で介護現場の声を聴き、介護現場の課題を基にロジックモデルでの分析を行い、具体的な施策に落とし込み、PDCAサイクルをまわすこと。」

介護人材の確保について

「介護人材確保施策を企画・推進する会議体を立ち上げ、事業所の代表者同士が情報交換できる場を設

定すること。

「経営課題解決のための研修を開催し、介護人材を育成、定着する環境を整備すること。」

「介護現場の負担を軽減し、離職防止と質の向上を図れるよう、介護現場のICT化を推進すること。」

「介護職のさらなるイメージアップのため、介護の魅力発信を強力に推進すること。」

介護サービスの最適化について

「介護予防・日常生活支援総合事業については、「リエイブルメント（望む暮らしの再獲得）」に特化したサービスの拡充を検討すること。」

「利用者のニーズと企業や民間とのマッチングにより、介護分野の新たなサービスを生み出せる環境を整備すること。」

「ケアマネジャーのケアプラン作成の負担軽減と技術の伝承が可能となる、ＡＩケアマネジメント支援システムの将来的な活用を検討すること。」

財源について

「介護サービスを受けられる環境を持続可能なものとするため、半田市においても、介護人材の採用・資格取得・人材育成への補助制度等を創設できるよう、国や県に対して、予算要望を行うこと。」

「施策を効果的に推進できるよう、国や県の予算情報を注視し、財源を確保すること。」

建設産業委員会 活動報告会 (要旨)

調査テーマ

「6次産業化の拠点整備」

半田市においては、久世市長の就任後、選挙公約に掲げていた6次産業化モデル都市に向け、様々な取組みを実施しています。

また、半田市議会でも、令和3年度に6次産業化調査特別委員会を立ち上げ、半田市における6次産業化の取組みに関する今後の方向性について調査研究を行い、「民間人材の活用」「地域が一体となった6次産業化の推進体制の構築」「販路開拓の支援の実施」について提言を行っていました。

当委員会では、先の提言を実現するために必要な方策について協議を重ね、その結果「6次産業化を推進するための拠点整備」を行う必要があるとの考えに至りました。

また、拠点整備にあたっては、道の駅や産直市場のようなハード面での施設整備に限らず、情報発信、情報交換、交流、商品開発・研究などのソフト面における拠点となることも想定し調査を行うこととしました。

以上の経緯を踏まえ、県内では豊橋市の「道の駅 とよはし」を、県外では、栃木県那須町の「道の駅 那須高

原友愛の森」、千葉県神崎町の「道の駅 発酵の里こうざき」の視察と併せて、東京駅付近にある複数のアンテナショップの見学を行いました。また、委員会にＪＡあいち知多の職員を招いて「知多半島における産直市場の現状や課題について」をテーマに勉強会を実施しました。そのうえで、以下のとおり提言をしました。

「6次産業化を推進するための拠点整備」について、6次産業化支援プロジェクトの中で一定の方針を示すこと。

「拠点を整備する目的に応じて、保有する機能や整備する場所等を精査すること。」

「施設整備を行う場合は、多目的な利用ができ、多くの人が集う場所となるよう考慮すること。」

「拠点で地場産品の販売を行う場合は、知多半島全体のマーケティングを考慮して、戦略的に実施すること。」

6次産業化は半田市における新たな軸となる試みであり、ひとつひとつとまちづくり両面において可能性のある事業となります。そのためにも思い切った拠点整備を期待します。

